

インターネット接続時のトンネルヘルスステータスの追跡

内容

[概要](#)

[背景説明](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[ネットワーク図](#)

[インターフェイスのステータスの追跡](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

概要

このドキュメントでは、VPN 0でトランスポートトンネルのヘルスステータスを追跡する方法について説明します。リリース17.2.2以降では、Network Address Translation (NAT ; ネットワークアドレス変換) 対応のトランスポートインターフェイスがローカルインターネット出口に使用されます。インターネット接続のステータスは、これらのヘルプを使用して追跡できます。インターネットが使用できなくなった場合、トラフィックはトランスポートインターフェイスの非NAT化トンネルに自動的にリダイレクトされます。

背景説明

ローカルサイトのユーザにWebサイトなどのインターネットリソースへの直接かつ安全なアクセスを提供するために、vEdgeルータをNATデバイスとして設定し、アドレス変換(NAPT)とポート変換(NAPT)の両方を実行できます。 NATを有効にすると、vEdgeルータから出るトラフィックは、インターネットアクセス用のNATサービスを提供するコロケーションファシリティにバックホールされるのではなく、インターネットに直接渡されます。この方法でvEdgeルータでNATを使用すると、トラフィックの「トロンボーン」を排除し、ローカルサイトのユーザと使用するネットワークベースのアプリケーションとの間の距離が短い効率的なルートを許可できます。

前提条件

要件

このドキュメントに特有の要件はありません。

使用するコンポーネント

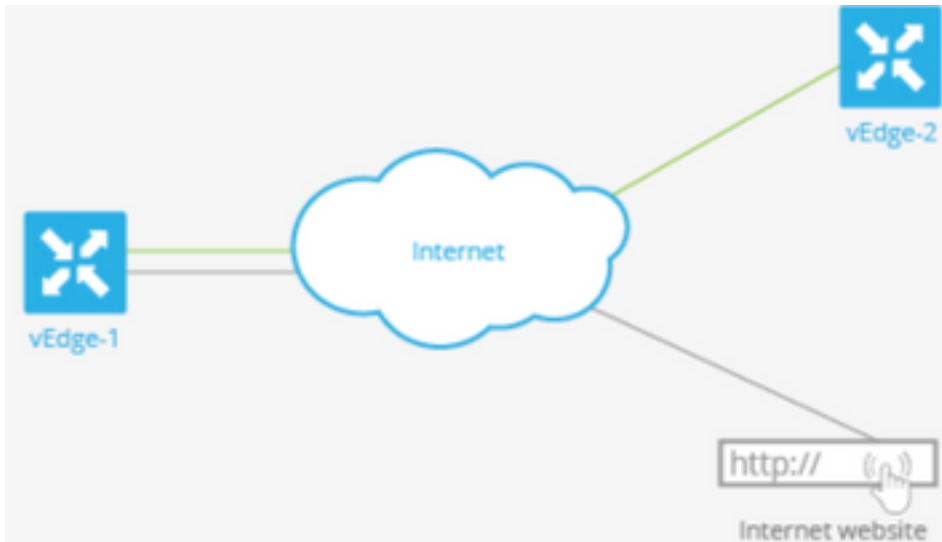
このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

設定

ネットワーク図

ここで、vEdge1ルータはNATデバイスとして機能します。vEdgeルータはトラフィックを2つのフローに分割し、2つの個別のトンネルと考えることができます。緑色で示された1つのトラフィックフローはオーバーレイネットワーク内に残り、オーバーレイネットワークを形成するセキュアなIPsecトンネル上の2つのルータ間を通常の方法で移動します。2番目のトラフィックストリームはグレーで示され、vEdgeルータのNATデバイスを経由してオーバーレイネットワークからパブリックネットワークにリダイレクトされます。



次の図は、vEdgeルータのNAT機能がトラフィックを2つのフロー（または2つのトンネル）に分割して、一部がオーバーレイネットワークに残り、一部がインターネットやその他のパブリックネットワークに直接移動する方法を示しています。

ここで、vEdgeルータには2つのインターフェイスがあります。

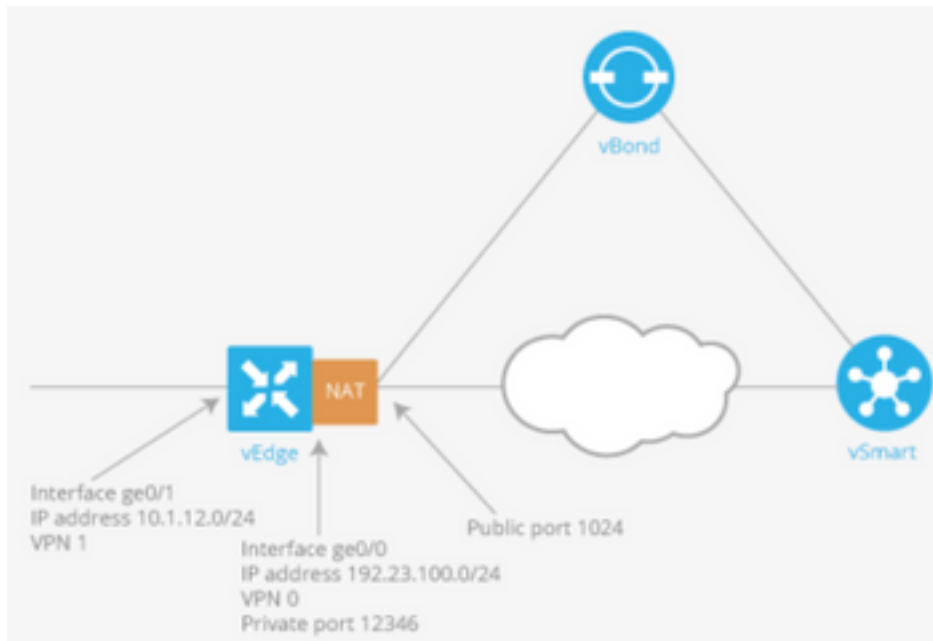
- インターフェイスge0/1はローカルサイトに面しており、VPN 1にあります。そのIPアドレスは10.1.12.0/24です。
- インターフェイスge0/0はトランスポートクラウドに面しており、VPN 0（トランスポートVPN）にあります。そのIPアドレスは192.23.100.0/24で、オーバーレイネットワークトンネルにはデフォルトのOMPポート番号12346が使用されます。

ルータからの一部のトラフィックがパブリックネットワークに直接送信されるようにvEdgeルータをNATデバイスとして機能するように設定するには、次の3つのことを行います。

- WANトランスポート側インターフェイス上のトランスポートVPN(VPN 0)でNATを有効にします。これはge0/0です。vEdgeルータから出るすべてのトラフィックは、他のオーバーレイネットワークサイトまたはパブリックネットワークに向かいます。

- 他のVPNからのデータトラフィックをvEdgeルータから直接パブリックネットワークに送信するには、これらのVPNでNATを有効にするか、これらのVPNにVPN 0へのルートがあることを確認します。

NATが有効な場合、VPN 0を通過するすべてのトラフィックはNAT処理されます。これには、パブリックネットワークを宛先とするVPN 1からのデータトラフィックと、vEdgeルータとvSmartコントローラ間およびルータとvBondオーケストレータ間のDTLSコントロールプレーン通線の確立と維持に必要なトラフィックの両方が含まれます。



インターフェイスのステータスの追跡

インターフェイスステータスのトラッキングは、VPN 0のトランスポートインターフェイスでNATを有効にして、ルータからのデータトラフィックをデータセンターのルータに最初に送信するのではなく、インターネットに直接送信できるようにすると便利です。この状況では、トランスポートインターフェイスでNATを有効にすると、ローカルルータとデータセンターの間のTLOCが2つに分割され、一方がリモートルータに、もう一方がインターネットに分割されます。

トランスポート通線のトラッキングを有効にすると、ソフトウェアはインターネットへのパスを定期的にプローブして、それがアップ状態であるかどうかを判別します。このパスがダウンしていることがソフトウェアで検出されると、インターネットの宛先へのルートが取り消され、インターネット宛てのトラフィックはデータセンタールータを経由してルーティングされます。インターネットへのパスが再び機能していることをソフトウェアが検出すると、インターネットへのルートが再インストールされます。

設定

1. システムブロックの下にトラッカーを設定します。

`endpoint-dns-name <dns-name>` は、トンネルインターフェイスのエンドポイントのDNS名です。これは、トランスポートインターフェイスのステータスを判別するためにルータがプローブを送信するインターネット上の宛先です。

```
system
  tracker tracker
```

```
endpoint-dns-name google.com
```

```
!
```

```
!
```

2. トランスポートインターフェイスでnatとtrackerを設定します。

```
vpn 0
interface ge0/0
 ip address 192.0.2.70/24
 nat
 !
 tracker tracker
 tunnel-interface
```

```
!
```

```
!
```

を選択します。VPN 0経由でローカルに存在するトラフィックにトラフィックを転送します。

```
vpn 1
 ip route 0.0.0.0/0 vpn 0
```

```
!
```

確認

ここでは、設定が正常に機能しているかどうかを確認します。

1.VPN 0のデフォルトルートの確認

```
vEdge# show ip route vpn 0
Codes Proto-sub-type:
 IA -> ospf-intra-area, IE -> ospf-inter-area,
 E1 -> ospf-external1, E2 -> ospf-external2,
 N1 -> ospf-nssa-external1, N2 -> ospf-nssa-external2,
 e -> bgp-external, i -> bgp-internal
Codes Status flags:
 F -> fib, S -> selected, I -> inactive,
 B -> blackhole, R -> recursive
```

VPN	PREFIX	PROTOCOL	SUB TYPE	IF NAME	NEXTHOP	NEXTHOP	NEXTHOP	TLOC
IP	COLOR	ENCAP STATUS			ADDR	VPN		
0	0.0.0.0/0	static	-	ge0/0	192.0.2.1	-	-	-
	-	-	F,S					
0	192.0.2.255/32	connected	-	system	-	-	-	-
	-	-	F,S					
0	192.0.2.70/24	connected	-	ge0/0	-	-	-	-
	-	-	F,S					

2. show interface VPN 0では、Tracker Statusが「UP」である必要があります。

```
vEdge# show interface ge0/0
```

AF	TCP	IF	IF	IF	ADMIN	OPER	TRACKER	ENCAP
SPEED	MSS		RX	TX			STATUS	

VPN	INTERFACE	TYPE	IP ADDRESS	STATUS	STATUS	STATUS	TYPE	PORT	TYPE	MTU	HWADDR
	MBPS	DUPLEX	ADJUST	UPTIME	PACKETS	PACKETS					
0	ge0/0	ipv4	192.0.2.70/24	Up	Up	Up	null	transport		1500	
	12:b7:c4:d5:0c:50	1000	full	1420	19:17:56:35	21198589	24842078				

3. RIBで「NAT」ルートエントリを探します。

```
vEdge# show ip routes nat
Codes Proto-sub-type:
  IA -> ospf-intra-area, IE -> ospf-inter-area,
  E1 -> ospf-external1, E2 -> ospf-external2,
  N1 -> ospf-nssa-external1, N2 -> ospf-nssa-external2,
  e -> bgp-external, i -> bgp-internal
Codes Status flags:
  F -> fib, S -> selected, I -> inactive,
  B -> blackhole, R -> recursive
```

VPN	PREFIX	PROTOCOL	SUB TYPE	IF NAME	ADDR	VPN	TLOC
IP	COLOR	ENCAP	STATUS				
1	0.0.0.0/0	nat	-	ge0/0	-	0	-
	-	-	F,S				

4. サービス側からのデフォルトルートが、NATがオンのトランスポートインターフェイスを指していることをクロスチェックします。

```
vEdge# show ip route vpn 1 0.0.0.0
Codes Proto-sub-type:
  IA -> ospf-intra-area, IE -> ospf-inter-area,
  E1 -> ospf-external1, E2 -> ospf-external2,
  N1 -> ospf-nssa-external1, N2 -> ospf-nssa-external2,
  e -> bgp-external, i -> bgp-internal
Codes Status flags:
  F -> fib, S -> selected, I -> inactive,
  B -> blackhole, R -> recursive
```

VPN	PREFIX	PROTOCOL	SUB TYPE	IF NAME	ADDR	VPN	TLOC	IP
	COLOR	ENCAP	STATUS					
1	0.0.0.0/0	nat	-	ge0/0	-	0	-	
	-	-	F,S					

トラブルシューティング

ここでは、設定が正常に機能しているかどうかを確認します。

1. endpoint-ipまたはendpoint-dns-nameが、HTTP要求に回答できるインターネット上にあることを確認します。また、エンドポイントのIPアドレスがトランスポートインターフェイスと同じでないことを確認してください。この場合、「トラッカーのステータス」は「ダウン」と表示されます。

```
vEdge# show interface ge0/0
```

VPN	INTERFACE	AF	TYPE	TCP		STATUS	STATUS	STATUS	TYPE	PORT	TYPE	MTU	HWADDR
				IP ADDRESS	UPTIME								
				SPEED	MSS		RX	TX					
				MBPS	DUPLEX	ADJUST	PACKETS	PACKETS					

```
-----
0 ge0/0 ipv4 192.0.2.70/24 Up Up Down null transport 1500
12:b7:c4:d5:0c:50 1000 full 1420 19:18:24:12 21219358 24866312
```

2.パケットがインターネットに送信されることを確認するために使用できる例を次に示します。
たとえば、8.8.8.8はGoogle DNSです。VPN 1からのパケットは送信元です。

```
vEdge# ping vpn 1 8.8.8.8
```

```
Ping in VPN 1
```

```
PING 8.8.8.8 (8.8.8.8) 56(84) bytes of data.
```

```
64 bytes from 8.8.8.8: icmp_seq=1 ttl=51 time=0.473 ms
```

```
64 bytes from 8.8.8.8: icmp_seq=2 ttl=51 time=0.617 ms
```

```
64 bytes from 8.8.8.8: icmp_seq=3 ttl=51 time=0.475 ms
```

```
64 bytes from 8.8.8.8: icmp_seq=4 ttl=51 time=0.505 ms
```

```
64 bytes from 8.8.8.8: icmp_seq=5 ttl=51 time=0.477 ms
```

```
--- 8.8.8.8 ping statistics ---
```

```
5 packets transmitted, 5 received, 0% packet loss, time 3999ms
```

```
rtt min/avg/max/mdev = 0.473/0.509/0.617/0.058 ms
```

NATトランスレーショナルフィルタを確認します。NATフィルタがインターネット制御メッセージプロトコル(ICMP)用に構築されていることがわかります。

```
vEdge# show ip nat filter
```

NAT	NAT	VPN	PROTOCOL	SOURCE	PRIVATE	DEST	SOURCE	DEST	SOURCE	PUBLIC
				FILTER	IDLE	OUTBOUND	OUTBOUND	INBOUND	INBOUND	
VPN	IFNAME	VPN	PROTOCOL	ADDRESS	ADDRESS	PORT	PORT	ADDRESS	ADDRESS	
	PORT	PORT	STATE	TIMEOUT	PACKETS	OCTETS	PACKETS	OCTETS		

```
-----
---
0 ge0/0 1 icmp 192.0.0.70 8.8.8.8 13067 13067 192.0.2.70 8.8.8.8
13067 13067 established 0:00:00:02 5 510 5 490 -
```